LC
りぽーと
Vol.15

〒663-8558　西宮市池開町6-46
武庫川女子大学言語文化研究所
TEL 0798(45)3536
FAX 0798(45)3574
http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC

ことわざ好きのことわざ意識

2002年11月26日（土）、本学に於いて「第14回ことわざフォーラム」*が開催されました。例年、言語文化研究所では「言語文化セミナー」を主催していますが、今年度は、その拡大版として、ことわざ研究会と共催で行ったものです。

午前中は研究発表、午後は平曲の語りの後、シンポジウムが行われました。シンポジウムのテーマは「ことわざと比喩」。比喩研究のオーソリティーである中村明先生（早稲田大学）がまず話してくださり、続いてことわざ研究会の伊藤高雄会員、鈴木雅子会員が発表し、その後参加者との質疑応答、活発な議論が行われました。

学外からは、ことわざ研究会会員、ＬＣ倶楽部会員、日本語研究者などの参加があり、ことわざが持つ意味の奥深さ、おもしろさを再認識する時間を共有しつつ、盛会の内に幕を閉じました。ご参加くださった皆様に、改めてお礼申し上げます。

わたしたち現代人は、ことわざをあまり使っていない気もしますが、それでも知らず知らずのうちにことわざを使っているようです。昨年のノーベル賞受賞者、田中耕一氏の記者会見でも「寝耳に水」といったことわざが使われていました。

よく使うことわざ＝好きなことわざ、あまり使わないことわざ＝嫌いなことわざ、というような、単純な図式は成り立たないかもしれませんが、読者の皆さんにもひとつふたつ、気になることわざがあるのではないでしょうか。そしてそれは、どんなことわざですか？

当研究所では、フォーラム参加の皆さんに、「あなたの好きな（嫌いな／気になる）ことわざは何ですか」といった質問をしました。ことわざに興味を持っている人たちが、ことわざに対してどのような意識を持っているのかを探ろうと考えたのです。質問では、好きなことわざ、嫌いなことわざ、気になることわざをそれぞれあげてもらい、その理由についても述べてもらいました。

日本語の豊かな表現法の一つであることわざが、ことわざをよく知る人たちの意識の中でどのように捉えられ、位置づけをされているのか、その一端を垣間見てみましょう。

以下に、アンケートの内容をまとめたものを示します。

---

*内容は　http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC/news.htm　をご覧ください

【好きなことわざとその理由】

「弘法も筆のあやまり」

人間は間違うことの多い毎日を送っている。そんな日々の中でこのことわざを言われるとホッとする。(50代　女)

子どもにミスを指摘された時は、目くじらを立てて争うのも大人気ないので、このことわざでさらっと次に移ることにしている。(60代　男)

「思い立ったが吉日」

なかなか行動に移せない時の教訓になる。(20代　男)

勉強を始めるのに年齢は関係ないと励まされる。(50代　男)

「かわいい子には旅をさせよ」

両親と離れることで両親の大切さが分かる。(20代　女)

「Mlima haikutani Binadamu hakutana」(スワヒリ語　山と山は出会わないが、人と人とは出会うものだ)

人間関係に勇気を与えているから。(30代　女)

「人事を尽くして天命を待つ」

自分ひとりの力ではどうにもならない時の心の助けになる。(30代　女)

「明日は明日の風が吹く」

まさにその通り。なぐさめられる。(50代　女)

「苦あれば楽あり」

何でも苦労しないと本当の素晴らしさに気付かないと思う。(50代　女)

「七度の餓死にあうとも一度の戦にあうな」

従来のことわざ観をくつがえすような思想を持つことわざ。(50代　男)

「朝起きては銭のことを言わず」

このことばに出会ってから、我が家では午前中はお金のことを話題にしないことになっている。(60代　男)

励まされたり、勇気を与えられたり、ホッとしたり、なぐさめられたり、心の助けになったり…。自分を力づけてくれるもの――ことわざ好きの人たちは、ことわざにそんな力が潜んでいると感じているようです。

また、何かを始める際のきっかけや、自分の気持ちを納得させたい場合にもことわざが役に立っていると言えそうです。

【嫌いなことわざとその理由】

「出る杭は打たれる」

気にしていると疲れる。他人と一緒だと安心し、他人と違うことをすると変わっていると言われる日本の風潮が納得できない。(30代　女)

若い時にめげずに、もっとしたい事をしてくればよかった。(70代　女)

「楽あれば苦あり」

苦しい時に聞くのはいいが、楽の時に聞くとうんざりする。(30代　女)

「雄弁は銀、沈黙は金」

おしゃべりばかりで、言うべき時に言わない人や風潮が嫌い。(40代　女)

「負けるが勝ち」

弟や妹とケンカをすると叱られ、いつもこのことわざを言われた。(40代　女)

「今日できることは明日にのばすな」

あまりに教訓的。また、せかされているようでイヤ。(50代　女)

「秋なすは嫁にくわすな」

２つの意味があるようだが、嫁と姑の関係が前面に出ているから。(50代　女)

「地獄の沙汰も金しだい」

金が全てを支配しているようで嫌い。(60代　女)

「一寸先は闇」

気をつけるようにとのことだろうが、希望が持てない。(60代　女)

「年寄りの冷や水」

自分が年寄りになってきたから。(50代　男)

「となりに倉が立てば腹が立つ」

貧しくても、なぜそうなるのか見なおす心をもちたい。(60代　男)

「馬の耳に念仏」

現代っ子は周りの大人が忠告しても聞く耳を持たない。(60代　男)

頭から押さえつけられるようなことわざ、教訓的な意味合いが強いことわざ、精神の自由がないような意味を持つことわざが嫌われる傾向にありそうです。

「出る杭は打たれる」(30代女／70代女)、「苦あれば楽あり」(好き50代女)、「楽あれば苦あり」(嫌い30代女) などのことわざの捉え方は、年代によって違いが表れていると言えそうです。

【気になることわざとその理由】

「好きこそものの上手なれ」

何かを始める時には大事な気持ち。(30代　女)

「百聞は一見にしかず」

自分の目で確かめ事実を見ることがおもしろい。(30代　女)

「年寄りの冷や水」

祖父がよくこのことばを使っていた。(50代　女)

「取ったら取られる」

自分は他人から取ったこともないのに、スリなどに遭う。(60代　女)

「人間至る処青山あり」

サラリーマン人生で何度もこのことわざにだまされた。(50代　男)

「河童に水練を教える」

明治以降の新作ではないか。(50代　男)

「付和雷同」

日本人の主体性のなさなど、日本を誤った方向に走らせそうだ。(60代　男)

「たなからぼたもち」

今の子どもが好きなことわざで、子どもの実態をよく表している。(60代　男)

気になることわざには、好きなことわざ、嫌いなことわざ、自分の人生に縁が深い、あるいは思い出があることわざなどが寄せられました。

ことわざには、間違った意味に解釈されているものが少なくありません。「情けは人のためならず」「エビでタイを釣る」などがその代表的な例です。しかし、ことわざ好きの人たちは、間違ったことわざよりも自分の身近にあることわざを気になるものと捉えているようです。

好きなことわざには、ほかに「急がば回れ」「一石二鳥」「案ずるより生むが易し」などが、また、嫌いなことわざとしては、「言わぬが花」「住めば都」などがあげられていました。

《あとがき》

ことわざに対する意識を探るにはデータが少なかったのですが、それでも好きなことわざ・嫌いなことわざ、それぞれの傾向がうかがえたのではないかと思います。紙面の都合上、表現を少し変えたり、掲載できなかったりしたものもあります。ご了承ください。

最後に、アンケートにご協力くださった皆さんにお礼申し上げます。

［担当］佐竹秀雄・岸本千秋　［作業協力者］　大野沙織　2003.Feb